

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第53号 発行日2008年1月25日

Contents

2008年の予定、松尾氏叙勲を祝う会	1
2007年の活動、新春のごあいさつ	2
電が関情報(JNTO理事長)、観光庁	3
電が関、NEWSPOT(旧文部省)	4
観光人国記(奈良県知事、青葉茶屋)	5
新春のごあいさつ(丹羽顧問ほか)	6
新春のごあいさつ(各支部長ほか)	7
世界遺産ポタラ宮殿、城下町と観光	8
観光立国と提言、COLUMN	9
お得な情報(美味しい話、道の駅)	10
提案(ミシュランと赤福)、イタリア通信	11
天気の話(黄砂)、会員名簿	12



奈良県は、平城宮遷都1300年記念事業として、大極殿正殿を2010年に復元する。この写真の姿が実現すれば、国営公園化される予定の平城宮跡の目玉的な存在になるだろう。

巻頭言

「観光サミットin東京」開催へ

JN協会5月総会を機に、10支部長、女将が参加し盛大に

7月には「観光立国フォーラムin宮崎」を開く予定

JAPAN NOW観光情報協会(松尾理事長)は、「都市再生・観光振興・環境保全」を目的に東京都知事から認証され活動をはじめから丸7年となるが、平成20年はこれを記念して東京のプレスセンターで開く5月の会員総会のあと「JN協会・観光立国サミットin東京」を開催することで準備を進めている。

このサミットでは北海道、東北、中部、北陸、神戸、四国、中国、九州など10支部長や本紙の観光人国記に登場した市長、女将が参加して街づくり、観光振興、環境保全について討論し、その結果をまとめて政府、自治体、経済団体に提言する計画。来賓として国土交通大臣や地域振興担当大臣らの出席をお願いする。

JN協会は新年の事業として1月31日に東京・大井埠頭の見学会を実施し、7月には九州支部が主催する「観光立国フォーラムin宮崎」を宮崎市で開く。宮崎の観光や食文化に力を入れている東国原宮崎県知事や宮崎市長を来賓として予定している。また3月にはJN協会の定例理事会を開き、5月の総

会に提案する議案や人事案件を協議する。副理事長は橋元氏の死去に伴い、その後任を選任するが各理事、監事は再任の予定である。このほか郷土発展振興会との協力によるシンポジウムを9月ごろ富山県高岡市で開催し、情報紙「JAPAN NOW」とホームページの充実に取り組む。

(JN協会事務局長 白澤照雄)

和気あいあいの「松尾氏の叙勲を祝う会」

昨年11月に瑞宝重光章の叙勲を受けられた松尾道彦・日本海事センター会長(JN協会理事長)の祝賀パーティーが1月11日昼、横浜市内のホテルで開かれた。

発起人は、奥寺康彦、加藤愛恵、白澤照雄氏ら8人の有志。約60人の参加者は、中西享氏のピアノ演奏や香村千鶴子さん、樋口雅子さんのフラダンス、菅原順子さんの踊り(奴さん、かっぱれ)などを楽しみ、和気あいあいのうちに松尾氏の叙勲を祝うとともに、新年を寿いだ。

東北、中国に開設し全国10支部が誕生 JN協会 昨年も積極的な市民運動展開

JAPAN NOW観光情報協会は、昨年も各地で観光立国や都市再生、環境保全の市民運動を活発に展開し、4月には仙台市に東北支部、9月には広島市に中国支部を立ち上げて全国の主な経済圏に10支部が開設された。東北支部の設立総会は4月13日仙台市で行われ支部長には仙台商工会議所会頭の丸森伸吾氏が就任した。フォーラム「新世紀・大東北圏の活力と魅力を探ろう」は、講師の須田JR東海相談役や松本元自治事務次官が観光立国と東北の発展策、道州制導入の課題について講演し、宮城県や東北各地から約210人が参加して盛況だった。

JN協会定時総会は、5月21日東京のプレスセンターで開き、平成19年度の事業計画や予算を決定した。このあと渡辺行政改革担当大臣を招き、「道州制導入と国家公務員の天下り規制」をテーマに講演していただき、話題を提供した。約200人が参加し、懇親会も盛況だった。

また、9月21日には広島市でJN協会10番めの支部である中国支部設立総会及びフォーラム「瀬戸内と日本海に囲まれた大中国圏の活性化と将来展望」を開催。支部長には大田広島電鉄社長が就任し、このあとフォーラムに移り須田JR東海相談役と国土交通省の大野海事局次長が観光と中国地方の海運発展策について講演した。藤田広島県知事が来賓として出席、中国地方の各県から約150人が参加した。（写真は広島会場）

第3回「21世紀は大北海道圏の時代」（観光立国フォーラム in 札幌）が11月6日、道内の行政、民間企業関係者など約300人が参加して札幌市で開かれた。北海道観光連盟との共催で行われたフォーラムはJN協会の年中行事となり、札幌市の期待も大きくなっている。講師は渡辺・前ジェットロ理事長、須田JR東海相談役、中尾国土交通省港湾局長が北海道の経済、観光、港湾振興について提言し、新聞でも報道された。

金沢に本部がある郷土発展振興会（加藤愛恵会長）とJN協会の共催で行われたイベントも多く、7月8日には石川県白山市で記念シンポジウムが開かれ松尾理事長や白澤副理事長らも「観光立国」や「マスメディアあれこれ」というテーマで講演した。11月23日は東京・神田で「食・心・動」三育の分野で活躍する女性たちによるシンポジウムも開催され、盛況だった。

観光立国セミナーも毎月開催され、好評だった。松尾理事長が11月6日に運輸省時代の業績が評価されて「瑞宝重光賞」を受賞するなど、明るいニュースも多かった。（JN協会事務局長 白澤照雄）

2008年がスタートしました。遅ればせながら、謹賀新年！

平成20年 観光立国希望の年に

JN協会理事長 松尾道彦



平成も20年の成人を迎えた本年は当協会発足8年目にあたります。

昭和20年は、不幸な第2次大戦の終幕の年でした。21世紀は、平和を基とした「観光」の世紀と云われています。世の人全てが平和に感謝し生き甲斐のある仕合せ感を体験できる

国際・国内観光交流に向けて、「観光立国」希望の年を祈念しつつ、着実な市民活動を通じて、協会の発展を推進して参りたいと思います。

これまで、会員の方々や地域の温かいご支援をいただき、昨年9月広島での中国支部設立により、北海道、東北、東京、中部、北陸、神戸、四国および九州地区で10の支部が設立され、全国観光ネットワークが構成できました。引き続き、各支部におけるフォーラムの開催等を通して、観光・地域振興に寄与するとともに、10支部参加の「JN協観光立国サミット」開催も準備して参りたいと考えています。

本年は、7月には北海道洞爺湖サミット、8月には北京オリンピックの開催等一大イベントが予定されアジアでの交流発展が大きく期待されています。このような時期に、観光行政の一元化、明確化、効率化を目指して、10月には国土交通省に「観光庁」が設置される予定となっています。誠にタイムリーで歓迎すべきことであり、当協会としても微力ながら観光振興の一翼を担って参りたいと思います。

年頭にあたって

JN協会副理事長・中部支部長 須田 寛

年頭にあたって皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

JAPAN NOWの活動も軌道に乗り本紙も回号を重ねてまいりました。

私はJNの行事にも参加させていただいておりますが、そこで感じることは、ご参会の皆様方とくに地方での観光に関するご関心が次第に高まっていることを肌で感じられるようになりました。そして、「観光」の振興を何とか地域づくり、地域おこしに役立てようと考えて、いろいろ勉強される方が増えて来たように思います。観光はこのように地域づくりの一環として、又地域づくりと共に進める時、大きい効果を発揮するものと思います。JAPAN NOWの活動がそのような意味でこれから地域と一体となった活動となるよう願うと共に、私も地域の皆さんと共にさらに勉強してそれを今後の観光に活かして参りたいと考えております。皆様と共に考える「新しい観光」をめざして、今年も頑張りますのでよろしくお願いたします。

（副理事長、支部長の挨拶は6、7面に）

東京 霞が関の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

観光立国を支える人たち 海外宣伝事業の強化盛り込む 来年スタートの次期中期計画に 国際観光振興機構理事長 間宮忠敏（まみや ただとし）氏



05年2月号で前任の中村稔理事長を取り上げました。間宮さんは中村さんの後任ですね。

中村さんは日産自動車から来て、民間人としての成果を出しました。ゴーンさんが推薦しただけあり、国際的な感覚もあり国際観光振興機構（JNTO）を立派なものにしてくれました。国土交通省独立行政法人評価委員会の評価も「順調」ということでも分かります。私は日本郵船から来ましたが、さらに良い組織にしようと努力します。

当面の基本方針はどのようなものですか？

07年に観光立国推進基本法が出来て今後5年間を視野に入れた基本計画が出来ました。来年から始まる次期中期計画では一つは、海外宣伝事業への重点化。市場別に宣伝戦略を作る。二つにウェブ戦略事業を推進する。海外の旅行者向けにリニューアルをしてページビューを増やしてゆく。三番目は自己収入を増やしてゆく。国に頼らない体制作りをする。

最後は組織運営を効率化してゆく。海外市場開拓部と国内サービス部を統合しスリムにして機能を強化する。人件費を下げる努力はしているのですが、大卒、大学院卒が9割おり、大変です。

ビジット・ジャパン・キャンペーン事務局とJNTOが来年にも統合するという話がありますが。

国土交通省がJNTOの活動を認めてくれて、こうした統合が来年中に出来る予定です。国土交通省には感謝しています。現在、中国、韓国、米国など13地域を対象にVJCを展開していますが、このほかのいわゆるBRICsのブラジル、ロシアなどにも力を入れて生きたいと思えます。

人件費の削減に力を入れていますが、人材の育成と矛盾しませんか？

新中期計画でも人件費の削減が他の独立行政法人よりも多く減らしています。しかし、観光立国を作り上げるには、人材がいなくては出来ません。観光誘致というのは人ですから。そのために自分たちでお金を稼ぐとともに海外事業所などの見直しをしているところです。

観光庁を作ると言うことですが。

来年度には出来るのではありませんか。是非作って欲しいですね。そうすれば今世界の観光局などの人員配置を見た時、日本のJNTOの人が少ない。

韓国で733人いるのに日本は137人です。是非、観光庁は作って欲しいですね。

間宮理事長のプロフィール

静岡県出身。1966年3月東京大学経済学部卒。4月に日本郵船入社。アジア部長、NYK・BULK・SHIP・LTD社長。98年6月に取締役。常務、専務を経て03年6月に副社長。05年に特別顧問。07年4月から現職。65歳。

国土交通省に「観光庁」設置へ

国土交通省の長年の懸案だった「観光庁」が2008年10月に設置されることになった。関連の法案を、08年通常国会にかける。現在は総合政策局の中に観光部が置かれ、観光政策課や国際観光課、観光地域振興課など6課がある。部長は前任の柴田耕介氏から局長級の総合観光政策審議官に昇格して、現在は日本郵政公社の理事・専務執行役員だった本保芳明氏になっている。

行政改革の観点から、国土交通省の中の海難審判庁をなくす。その海難審判庁は航空・鉄道事故調査委員会と統合して「運輸安全委員会」を設ける。

観光庁を作るのは観光立国推進基本法が出来、それに基いて観光立国体制を進めるためである。当面は2010年に外国からの観光客を1000万人にすることに全力を挙げる。人数は現在の80人から110人に増やし長官は海上保安庁長官と同等に次官級とする。

千葉県が観光立県推進条例を制定へ

千葉県は堂本知事の方針で観光に力を入れているが、「千葉県観光立県推進条例案」をまとめ、08年2月の県議会に出す。それによると観光立県推進基本計画を策定して、この計画に基づいて観光地作りや人材の育成など7つの施策を進める。千葉県は07年2月から4月にかけて観光キャンペーン「ちばデスティネーションキャンペーン」（DC）を開催して効果があった。しかし、カネを落とす宿泊客が少ないことや地域間の連携などに問題があり、改善するために条例を作ることになった。

入国者が初の900万人台へ

法務省が年初に発表した2007年の外国人入国者は、約915万人と前年より12.9%増え、初の900万人台となった。

国土交通省の数字も間もなく発表されるが、前年比二桁の伸びを見せ、830万人程度に達するものとみられる。これによって、「2010年、1000万人」という政府の目標が現実味を帯びてきたようだ。

法務省と国交省の数字が大きく違うのは、法務省が入管者を全てカウントしているのに対して、国交省は在日外国人の入国数を除外していることによる。ただし法務省がカウントしていない乗継客は、国交省の計算には入っている。

霞が関情報続き

北陸新幹線長野・金沢整備で911億円
平成20年度予算 観光は42億円を計上

国土交通省の平成20年度予算案によると、整備新幹線関連では北海道新幹線の新青森・新函館間の整備に178億円、東北新幹線の八戸・新青森間に700億円、北陸新幹線の長野・金沢間（白山総合車両基地含む）に906億円、福井駅の整備に5億円の計911億円を計上した。九州新幹線の博多・新八代間（鹿児島ルート）は1270億円、武雄温泉・諫早間（長崎ルート）には10億円を予算化した。

また、観光立国関係では「観光庁」の新設や国際競争力の高い観光地づくり、観光産業のイノベーション促進、人材育成などの予算として計42億7000万円が計上された。

JR東海が5兆円を自己負担で建設
リニア中央新幹線の東京・名古屋間

JR東海は昨年12月26日、2025年開業を目指すリニア中央新幹線の東京・名古屋間 約290キロについて用地買収を含めた総事業費5兆1000億円を全額自己負担で建設すると発表した。

財政難から政府などによる資金調達の見通しが立たないため、JR東海が調達することになった。

建設に伴うJR東海の長期債務残高のピークは、2025年度には4兆9000億円に達するが、開業8年目の2032年度には現在の債務残高と同じ3兆5000億円に減少するとしており、JR東海の松本社長は「自己負担でも経営健全は可能」と述べている。途中の駅の建設費は地元負担とする方針である。

NEW SPOT

in japan

文部省旧庁舎

東京・虎ノ門の交差点角に文部科学省の庁舎が戻ってきた。丸の内の仮住まいから4年、「霞が関コモンゲート」の呼び名で再開発された2つの高層ビルの、その東館32階建ての1～18階に文部科学省が1月初めに入った。20階以上は会計検査院だ。37階建ての西館は2～18階が金融庁、その上は民間企業が入居した。下層階や敷地内のアネックスビルに飲食店が営業し、メトロと直結する歩行通路もできて、隣の霞が関ビルのアクセスも一段と便利になった。

虎ノ門交差点から見ると、その高層ビルの前の古色漂う6階建ての風景は以前と変わらない。1933(昭和8)年に竣工した旧文部省庁舎の外観をそのままに改修を施し歴史的景観を残した。従来の文化財指定と異なって、建物内を改装できるなど実用を考えた「登録有形文化財」の登録だ。高層ビルとこの旧庁舎を合わせて中央合同庁舎7号

河瀬義昭氏が1300万円寄付

「社会貢献に」と
交通遺児育成基金とJN協会に

東京・港区在住の河瀬義昭氏が、このほど「社会貢献のためにご活用下さい」と交通遺児育成基金に1000万円、JAPAN NOW観光情報協会に300万円を寄付された。



交通遺児育成基金、JN協会は平成19年12月27日に河瀬氏（かぜのため欠席）の裕里子夫人（写真右）やJN協会の団体会員であるバロックジャパンの村井会長、交通遺児育成基金会長とJN協会理事長を務める松尾道彦氏らが出席して寄付金贈呈及び感謝状贈呈式を行い、河瀬氏の高潔な志に感謝の意を表し、交通遺児の育成や観光立国への市民運動に反映させることになった。



昭和の歴史刻む旧庁舎を前面に残した文部科学省

館と呼ぶ。

旧庁舎は主に文化庁が入居し、3階は旧大臣室を庁舎建設時の姿に復原し「文部科学省 情報ひろば」として1月7日から一般公開。月・金の10時～18時で入場無料。同じフロアに一般が閲覧できる同省図書館もある。3月下旬にひろばを拡大し、教育、スポーツ、科学技術・学術、文化の各分野別に行政施策の起源や流れを紹介する展示室を設ける予定だ。人を育む現代の歴史がどう表現されるか興味深い。

(写真・文 林 莊祐=会員)

観・光・人・国・記

遷都1300年を機に観光・奈良復活へ
観光部長の経験生かすか、荒井知事

荒井正吾（あらい・しょうご）氏
大和郡山市出身、1978年東大法卒、
運輸省（現国土交通省）に入り、
米国シラキュース大学マックスウェル
行政大学院を経て、同省観光部
長、海上保安庁長官等を歴任。
2001年7月参議院議員当選。2007
年5月奈良県知事当選。

アメリカ留学の経験があり参議院議員時代に外務大臣政務官を務めた荒井知事は、国際的かつ歴史的なセンスの持ち主のよう。2010年に、奈良平城京が誕生して1300年を迎えるが、「今の時代こそ、当時の日本と中国や朝鮮半島との関係を勉強し、1300年の時空を超えて外交感覚を磨き、アメリカや中国と付き合わなければと思う」と、いきなりグローバルな視点での発言が飛び出した。

さらに「1300年前の平城京は、渤海国（今の中国東北地方）の都と同様、中国の長安を模して造られたというが、当時の面影が残っているのは、この奈良だけ」とも。こうした考えから、平城宮跡の国営公園化により、できるだけ往時の姿を復原したいというのが、荒井知事の2010年プロジェクトの目玉。

そして、子どもたちをはじめ奈良を訪れる人たちに、1300年前を想い現在を考えてもらおう、という狙いだ。

さらに、「2010年の1年間を“平城遷都1300年記念の年”として、平城宮跡のほか奈良県全域で、さまざまなイベントを繰り広げたい」と言う。具体的な内容はまだ明らかにされていないが、担当者はアイデア豊富な荒井知事に追いまわられることだろう。

現在、奈良には年間3500万人が訪れるが、日帰り客が多くて、宿泊客は1割前後。宿泊は京都や大阪で、というケースが多いようだ。このため日帰り客が落とすお金は一人当たり3700円足らずと全国平均の半分以下。そこで、なんとか年間600万人が泊まれるよう客室を3000室を増やしたい、というのが県の当面の目標だが、条例で高いビルが立てられないから大型ホテルが建てにくい、それに埋蔵文化財が多く道路整備も思うに任せないなど、クリアすべき問題点は多く、ハードルは高そうだ。

奈良県には、古都・奈良、法隆寺、吉野・大峯という3つの世界遺産がある。しかも市内に春日山の原生林があるなど、自然環境にも恵まれている。

「雨の日に知事室を訪れたフランス大使が、周囲の自然と仏閣の調和に感嘆の声を上げられた」と荒井知事。

外国人が、もっとも好む日本の観光ルートは「東京 富士山 京都・奈良」となっているだけに、奈良をもっとアピールしたいところだろう。

遷都1300年を機に、観光立県・奈良の復活を目指して施策を進める荒井知事。それまでも、観光ボランティア全国大会の誘致（2009年）、日韓こども通信使事業（日韓中こども夢サミット）、観光見本市の開催など、次々にブレ事業を進めている。

しっとり古都を味わう宿
“親奥さん”が仕切る『青葉茶屋』

奈良公園の中に、この料理旅館『青葉茶屋』がある。緑に囲まれ、静寂そのものの、たたずまい。部屋数は少ないが、奈良を代表する旅館といわれる。



女将さんは、二代目の岡村昌子さん（写真）。「女将という言葉が好きでなくて、名刺は“青葉茶屋代表”、内では“親奥さん”と呼んでもらっています。いまは三代目が仕切っていますので、私は“親奥さん”というわけです。」

料理は、会席、青葉鍋などだが、精進料理も評判が良い、とか。東大寺の「結解（けっげ）料理」にヒントを得たもので、黒字に赤丸の「日の丸盆」に載せて出る料理は、色彩鮮やか。メインとなる豆腐寿司は、味付けした豆腐を巻き寿司風に仕立てた、まさに健康食である。

料理人は、息子さん。他の料亭などに修業に出たことはないが、昌子さんが仕込んで一人前になったという。独善にならないように、皆で外の味を試して得たヒントを帰ってきて活かす工夫をしているそうだ。

この旅館は、外から見ると平屋だが、地下にも部屋がある。要するに、公園内なので上には伸ばせないということなのだ。「ちょっとでもトンカチの音がすると、監視員が駆けつけてくるのです。風致地区なので借景には素晴らしい環境ですが、造作がほとんどできないので、古びた感じを受けるでしょうね。ですが、それがいいという馴染みのお客さんもいらっしゃるのです」とか。

この“親奥さん”、奈良女将の会の副会長も務める。奈良観光の振興に知恵を絞り、活動することが目的だが「ほとんどお喋りの場」になっていますと笑う。それも、意思疎通には欠かせないことだろう。個人的な趣味は「水墨画と俳画」とかで、西大寺での作品展にも出品するほどの腕前らしい。

奈良観光を盛んにするための意見を聞くと、「交通に若干の問題があります。JRでのアクセスが不便なこと、シーズン中や休日の道路混雑が気になるのですが」と言う。ただし、これは、そう簡単には解決できないだろう。現状を踏まえてのご健闘を祈る次第。（知事インタビューとも白澤・加納）

『青葉茶屋』 630-8301 奈良市高畑町1169
電話 0742-22-2917 F A X 0742-26-4574

2008年がスタートしました。遅ればせながら、謹賀新年！

祝 観光庁新設

JN協会顧問 丹羽 晟



明けまして、おめでとうございます。今年は、私達観光関係者にとってきわめて重要な年になると思います。今年の10月から、国土交通省に観光庁が新設されることとなったからです。

観光庁新設は、まさに「天の時」と「地の利」とを併せ得たものといえましょう。「天の時」とは、21世紀に入つてすぐに、政府では時の小泉総理が国会での施政方針演説で観光立国を宣言され、次いで、一昨年、国会では観光立国推進基本法が制定されたことです。「地の利」とは、この基本法の制定に伴い、政府が直ちに観光立国推進基本計画を策定し、更に、国土交通省が本省の主要組織を一部スクラップしてまで観光庁新設の予算要求を決断し、これが認められたことです。

そこで、これから一番大切なことは、「人の知」を得ることでありましょう。観光白書を読むと判りますが、観光問題は国土交通省の所掌を超えてほとんど全省庁にまたがる問題なのです。従って、従来は各省ごとの縦割り行政となり、強力な司令塔がありませんでした。今後は、観光庁が司令塔となり、強力なリーダーシップを発揮することが不可欠となります。そのためには、観光についての官・民の意識改革と、私達一人一人の強力な実行力が是非とも必要となります。まさに、「人の知」を得ることであると思っています。

“デザイン都市・神戸”の実現目指して

JN協会神戸支部長 岩田 弘三

神戸空港が開港し2年が経とうとしております。当年度の搭乗者数は前年比10%増の約300万人と地方空港としては順調に育ってきております。

また医療産業都市構想の着実な進展や次世代スーパーコンピュータの立地などを通じた活力づくりと同時に、新たな都市戦略として“デザイン都市・神戸”の推進に大きな可能性があると確信しております。神戸はもともと進取の気風あふれるデザイン都市でしたが、さらに魅力ある、人が住み、働き、訪れ、そして喜び、誇りを感じることができるといふまに並みを整備することで神戸に人材を呼び込み、新たな文化や産業を創造する都市戦略です。

そのリーディングプロジェクトとしてウォーターフロント構想があり、計画費用が神戸市の来年度予算に計上される予定です。例えば、神戸のオリジナリティの源泉である旧外国人居留地とウォーターフロントを繋ぐリノベーションをし、その一帯を神戸のもつDNAを呼び覚ます“デザイン都市・神戸”のシンボリックなゾーンにできたならば、その一帯の賑わいが一気に増し、市内外からの評価や注目を集め、そしてそのことが更なる集客につながるという好循環を生み、観光振興に大きく貢献することが期待できます。

将来に向けて神戸が生き生きと活力のある街として発展していくためにも、神戸の持つ資源や魅力をフルに活用した観光交流の活性化が期待されます。

日本の標準時を「+10」とする初夢

JN協会副理事長 横山善太

明けましておめでとうございます。ネズミさんは干支の初まり(中国故事によるものらしい)、私も6周目に入りますが、もう1周くらいは澆刺と過ごしたいと思っております。今年もよろしくお願ひいたします。

元旦の日の出は日本で一番早いのは千葉県犬吠崎あたりだそうですが、日本の最東端は根室の辺りなのだと思います。思い理科年表を調べてみました。主要都市の日出入時刻表によると、元旦千葉市午前6時49分、根室市午前6時50分と明快に表示されています。経度の差が東側に5°も有るのですが緯度の差(7°)が大きい為この時期では千葉の方が日の出が早くなるのが分かりました。因みに春分に向けて3月頃になると根室の方が早くなりますが、これは標準時設定経度(明石135°)の東側にあればある程、はやい夕と早い朝となるためでありましょう。

実は同じことを実感したのは、昔ドイツ・ハンブルグに駐在してました頃、2月初旬午後6時頃未だ薄明のいのに気付く、同じ時期の東京では日没5時10分で緯度の差が20°もあるのに何故なのかと思ったことがあります。そしてその後調べてみました。

要は、日照時間は自然の技で、ある緯度により異なるが、時刻は人為的な標準時設定経度との乖離状況により左右されることに辿り着きました。私が如何に不明であったかと云うことです。

話をもう一言展開してみますと、仮に日本の標準時を「+10」にすると夕暮れは遅くなるので観光にもよいでしょうし、省エネにもなります。

年の始めにあたりこの面白い空想を、もう少し研究してみたいと思っております。

私たちの“ご挨拶”です。今年もご支援を、お願いします！

「北海道洞爺湖サミット」の年！

JN協会北海道支部長 坂本 眞一



本年は、7月7日から9日にかけて「北海道洞爺湖サミット」が“地球環境問題”をテーマに洞爺湖温泉町を中心に開催されます。北海道にとりまして全世界の注目が集まる非常に重大な年となります。湖、火山、自然豊かな環境に恵まれた地域として有数の観光地でもあります。サミットは、北海道観光をPRする絶好の機会といわれ、道庁をはじめとして観光業界あげて世界の首脳、メディアに広く北海道を見ていただけるよう準備を進めています。

また、国内に向けても北海道が、改めて見直していただける機会ととらえております。サミットの成功に向けて北海道あげて協力・支援に努め、道民一人ひとりが、おもてなしの心を持って世界の首脳に北海道の素晴らしさを満喫していただき、より良い成果を生みだしていただくことを願っております。

昨年の観光立国推進基本法、基本計画の策定に続き、本年は観光庁の設置が認められ、観光が大きく躍進する年となることが期待されます。低迷している国内観光が、これを機に観光業界あげて振興に取り組み活性化を図るチャンスとしたいものです。

癒しの国・四国から年頭のご挨拶

JN協会四国支部長 梅原 利之

小泉元総理による観光立国宣言から5年、観光立国推進基本法の施行、そして観光庁の設立へと、日本は本格的な観光・交流の時代を迎えました。

同時に地域間の競争が大変激しくなってきました。私は、今後四国がこの競争を生き残ってゆくためには四国独自のブランドを確立することが不可欠であると考えています。言うまでもなく四国のブランドは「癒し」です。同時に現代人が求めているものも、今の世に最も欠けている「癒し」だと思います。四国には世界のどこにもない「お遍路」があります。また、黒潮あろう太平洋や波穏やかな多島美の瀬戸内海。西日本最高峰の石鎚山、剣山、更には四万十川に代表される数々の清流があります。そしてこれらに育まれた海の幸、山の幸。これらは全て「癒し」につながります。これらの観光資源を一つひとつ磨き上げて発信していきたいと思っております。

瀬戸大橋の開通から20年、明石大橋から10年の節目を迎える今年、四国ではさまざまな記念イベントが開催されます。加えて香川では弘法大師空海が伝えたと言われる「さぬきうどん」をキーワードに世界の人々が交流する「世界麺フェスタ2008 in さぬき」、高知では「あったか高知華ざかり」をテーマに「花・土・土佐であい博2008」など、今年も四国の魅力を日本中に世界中に発信してまいります。

45市町村がキャンペーン、今年秋に

JN協会東北支部長 丸森 仲吾



東北支部は、皆様方の力強いご支援のもと、昨年4月に全国で9番目の支部として設立以来、6月には東北の広域観光振興を新潟を含む、東北7県の官民が一体となって取り組む「東北観光推進機構」が設立されたのをはじめ、11月には、海外各地域の旅行エージェンツやマスコミのキーパーソンを招請し、東北の魅力ある観光情報を発信することにより東北のインバウンド旅行商品の造成を働きかけた「YOKOSO! JAPAN東北・2007」が開催されるなど、大きく飛躍した1年でした。

本年は10月から3ヶ月間、宮城県境を越えた45市町村及び民間組織とJR東日本が一体となり「仙台・宮城デスティネーションキャンペーン」(以下DC)が開催されますが、こうしたDCをはじめとした地域の観光施策が一過性ではなく、継続的な地域の力を生み出していききっかけとなり、将来における交流人口の増加につながるよう取り組むことが、私共の課題であると存じております。

当支部といたしましては、本年も引き続き、関係機関等との連携のもと、東北の観光振興に向けた積極的な事業を展開して参りたいと存じますので、ご支援、ご指導をお願い申し上げます。

おいしい料理を作りましょう！

JN協会中国支部長 大田 哲哉



2007年9月、JN協会中国支部は10番目の支部として設立されました。中国地方は、厳島神社、原爆ドーム、石見銀山と三つの世界遺産を擁し、また瀬戸内海は古来からアジアの文化交流の「海道」として、数々の観光資源を残しております。

ただ現状としては、各観光地がそれぞれに情報発信、観光プログラムの企画を行っているに過ぎず、広域的に結びついた観光ルートは未整備な状態にあると言わざるを得ません。

2008年、政府は観光庁を設立し、観光行政の一元化を目指しています。中国地方でも同様に、各地の観光振興機関、経済団体、地域住民が一体となって活動できるよう、連携を深めることが重要です。

「美味しい料理」を作るためには、いくら良い素材でも素材だけでは食べようという気にはなりません。

「一つの厨房」に腕の利くシェフを集めて、贅沢に仕上げるのが大切です。知恵を絞って、「素材を生かした魅力の創造」「広域的な観光ルートの造成」などに取り組んでいきたいと考えております。

「世界遺産」物語・・・

憧れの《ポタラ宮殿》

近藤 節夫

初めてチベットの「ポタラ宮殿」のデッサン画を眼にしたとき、大きな衝撃を受けた。周辺の牧歌的な景色やみずばらしい佇まいに引き比べ場違いに豪壮で、巨大な宮殿がラサ中心街の丘のうえに、あたかも周囲を睥睨するようにでんと君臨し、圧倒的なオーラを放っているように感じられたからである。現実に存在する建物とはとても思えなかった。はたしてそこにはどんな人たちが住んでいるのだろう。そのころ少年だった私の空想と好奇心は果てしなく広がっていった。

当時、世間離れした深山のかなたにあるチベット（現中国チベット自治区）のカリスマ性は、少年の夢と空想にさらに拍車をかけた。

まさに神秘のヴェールに包まれた「おとぎの国」の出現だった。爾来、ポタラ宮殿は、永遠の憧れとなった。

それがダライ・ラマ14世の国外脱出以来、チベットの存在は一転して世間から注目を浴び、現実社会の前に引き出されるようになった。観光ブーム、世界遺産人気により、この神秘的なポタラ宮殿も少しずつ観光客の目に晒されるようになった。そして06年7月、大胆にも標高5,000mを超える鉄道が敷設されたことによって、標高3,650mのポタラ宮殿もまた容易に手の届くところまで“天孫降臨”してきたのである。

07年11月、そのポタラ宮殿へ挑戦する機会が訪れた。



た。まさにチベット仏教（ラマ）の聖地である。

車窓から遥拝する遠景が、コバルト色の空の下に心の琴線を揺さぶる。車を降りると一目散にポタラ宮

殿正面に馳せ参じ、精進潔斎の気持ちで、「五体投地」をやったのけた。これでポタラ宮殿訪問の所期の目的はほぼ果たせた。指示に従って宮殿内部に入る。外部で330段ばかりの階段をゆっくり昇りながら、宮殿内へ入り天辺まで辿り着いた。

憧れのポタラ宮殿を昇りきったぞ！ 心の中で叫びながら下界を見下ろした時、足元遥かに陽を浴びて「五体投地」を試みている幾人かのラマ僧の姿が見えた。

訪日外国人は増え、830万人に

JNTO（国際観光振興機構）は、2007年の訪日外国人数は830万人になろうと予測している。これは1～11月に767万人と前年同期比13.7%と大幅に伸び、既に2006年全体の733万4000人を上回っていることから推計したものの。

城下町と観光

浦戸城から全国制覇を夢見た男

高知県と桂浜

JN会員 長宗我部 友親

青く無限に広がってゆくような太平洋の荒波に洗われている桂浜。この浜では、綺麗な五色石が拾えるし、夜は月の光りに照らされてみごとな風景が広がる。月の名所である。

しかし、この美しい海がかって血で染まったことがあった、という歴史にはほとんどの観光客は気づいていないのではないだろうか。

桂浜の背後は、小高い山になっている。その登り口には幕末に活躍した坂本龍馬の、懐に手を突っ込んで、海を臨んだ格好の像が立っている。

人々はこの場所で、一度立ち止まり、記念写真をとったりして、桂浜での観光はまず終わる。あるいはもう一つ足を伸ばして、坂本龍馬館を覗いて帰っていく人もいる。

でも、この地は高知県の歴史を考えるためには、坂本龍馬のこととは別に、忘れてはならない重要なところでもある。

ここは、もともと戦国時代に四国全土をおさめ、さらには全国制覇も夢見ていた四国の雄、長宗我部元親の居城、浦戸城があった場所でもあるのだ。龍馬館のもう少し奥から、当時の石垣が掘り出されたりする程度で、いまではわずかに城の痕跡がみられるのみとなっているが、元親はこの浦戸城から、信長、秀吉、家康らの動きなど天下の情勢をにらんでいた。浦戸城からは鯨が潮を吹く姿が当時は見られたし、元親は生け捕りにした鯨を大坂まで運び、秀吉に見せ、料理したという話も残っている。

元親は天下分け目の関が原の合戦の前年に、京都・伏見の別邸で病死したが、その後を継いだ盛親は石田三成の率いる西方についたため敗れ、結局浦戸城は明け渡しを余儀なくされる。浦戸城を受け取りにきたのは井伊の部隊で、抵抗する長宗我部の旧臣らとの間で激しい戦いが起こり、桂浜をはじめ浦戸の海には、血が流れた。

プロフィール

長宗我部 友親（ちょうそがべ・ともちか）
1968年共同通信社入社、経済部長、常務監事を経て、現在は株式会社「企画の庭」代表取締役。

親房系長宗我部家17代当主。早稲田大学教育学部卒。

長宗我部氏は、全国を歩いてJN紙に随時、「城下町と観光」を執筆して下さることとなりました。乞う、ご期待！

一方、日本人出国者は微減か

一方、2007年の日本人の出国は前年の1753万4000人を下回りそう。1～11月の実績が1588万6000人と前年同期比1.6%減となっていることから推計。円安で旅行代金が高くなったこと、賃金が伸びないことなどによる。

「観光立国と私の提言」

外国人の疑問を感じとって対応
通訳ガイドの池沢さんに聞く

JN会員 加藤 和子

「ビジットジャパン」キャンペーンの効果だろうか、最近、都内の繁華街を歩いていると、アジア系を中心とした外国人観光客が増えていることを肌で感じる。今回は海外からの旅行者と直接触れ合っている通訳ガイドのひとり、池沢なるみさんに話を聞いてみた。



池沢さん(写真)は、夫の海外赴任に同行し、米国暮らしの経験もあり、下のお子さんが小学校の高学年になり時間の余裕ができた90年代前半にガイドの資格を取った。英語を活かし、「何か人と人との懸け橋になるような仕事をしたい」という思いが、ガイド

を志すきっかけだったという。

外国人観光客の小さな疑問を敏感に感じ取って解決してあげることも大切な仕事だ。皇居前広場が砂利道で、年配の旅行者やハイヒールの女性には歩きづらそうなのを見かねて、舗装を提案したり、「しきたり」の違いで見苦しかったトイレに使い方の説明を表示するように求めたりと、ガイドならではの提案をし、政府側も思ったより迅速にかつ前向きに対応してくれたそうだ。

仕事を始めて14年。ガイドの仕事は旅行者の日本や日本人に対するイメージを変えてしまうこともある重大な仕事だ。「あなたに会えて、日本に対するイ

メージが変わった」と言われると、ガイド冥利に尽きると笑う。

ガイド業界がいま、頭を悩ませているのが、「ノンライ」問題だ。アジア系のツアーに多いのだそうだが、きちんと資格を持った通訳ガイドでない「ノンライセンス」の添乗員が説明も行っているツアーが横行しているようだ。ガイドの仕事を奪うということよりも、それで適切な説明ができていのか心配だという。違反行為には罰則もあるそうだが、実際には黙認されているのが現状であるという。池沢さんは、政府に、もっと「ノンライ」に強い姿勢で対応してもらいたいと語る。

北海道フォーラムの記事を拝見して

JN会員 小山 俊一

JN紙52号を、読ませていただきました。

2009年新千歳空港に新しい国際線ターミナルがきますが、東南アジア方面の旅客が主体のようですね。しかし、航空貨物でみてみましょう。米国大陸の主要都市とは同緯度の圏内にあり、成田、名古屋などに比べ最短の位置にあります。ということはアジア地区、シベリア地区に在するもろもろの空港を結び付けるに立地上最適の位置にあり、Hubとして将来航空貨物空港としての機能を広げられる可能性があるのではないのでしょうか。

これは広く北海道経済の活性化につながるひとつの問題にすることが出来るように思いました。前ジェットロ理事長の意見記事を拝見し筆を取りました次第です。(福島浜通り在住の小山氏の投稿要旨)

C O L U M N

動物園の知恵

いま北海道旭川市の旭山動物園が人気を集めている。何が関心を惹くかと言えば、動物たちのショーや、動物の本能と生態を、上手に引き出し見せてくれるからである。これによって日本全国から草木もなびくがごとく、見物客が旭山動物園へ押しかけ、一躍旭山動物園はその名を高めた。これを真似して特定の動物に一芸を仕込み、一枚看板とする動物園まで現れてきた。

しかし、これらの旭山方式が万能かと言えば、そうでもあるまい。見物客が喜ぶからといって、動物たちの生活環境を極端に変えたり、あまりにも奇をてらった曲芸を動物に仕込むことは、動物にストレスを与えるばかりか、下手をすると動物虐待にも繋がりがかねない。出来ることなら動物が本来住むべき生活環境に似た状況を作り出してやり、そこへ放り込んでやれば、それだけで個性的な生態は見られるはずである。

現状は動物たちが徹底して曲芸を押し付けられ、人の目の監視の下にストレスが溜まっている。もっと自然体で動物の生態を見せることに、もう工夫出来ないものだろうか。

フランクフルト市内に市営動物園がある。ごく普通の動物園である。ところが、これが地形と自然環境がマッチして、設計上もよくデザインされている。ライオン園に向かって歩いて行くと、遠くにいたライオンが不意に自分に襲い掛かからんばかりに向かってくることもある。目の前にあるのは植物の植え込みでしかない。ついにわが身もライオンの餌食かと観念した途端、ライオンは行動を止める。よく見ると植え込みとライオン園の間には、深い濠が巧みにカムフラージュされており、ライオンが人を襲うことはありえない。

人間の錯覚とか、死角を巧みに活かし、見物客の目から猛獣との境界線を上手に逸らしているのである。こういう風に自然環境を活かして、動物の普段の生態を間近に見られるように工夫してみるのも、動物園を活性化させるひとつの方法だと思う。

(近藤)

「日本で見つけた 世界おいしい物語」

バル デ エスパーニャ ムイ

バルデエスパーニャというので、スペインであることはわかったが、バルはバーの意味である。

丸の内のTOKIAビル。扉を開けると、天井は10mの高さに30mのバーカウンターが目飛び込んでくる。黒や茶の革張りの椅子に、前方の大きな窓からは昼は太陽の光、夜は丸の内の夜景である。

40席のカウンターの目の前でスタッフが「プランチャ」というカタルーニャ地方の鉄板焼きや、スペイン風オムレツを調理してくれる。イベリコ豚の生ハムも名物である。シェリー酒などと楽しむハモンイベリコ デベジョータ(生ハム)は1700円。頭付きの赤海老を使用して、ニンニクの利いたオリーブオイルで揚げた海老のアヒージョは1200円。仕上げにはアロス(米)を使った料理がよい。

海の幸のパエリアはサフランだけでなく、パプリカを乾燥させた「ニョラ」を使い、香りが深い。一人前2500円。軽いつまみからお料理まで堪能できる。スペイン産のカヴァやワインの品揃えも豊富。

天井からは生ハムが釣り下がっており、照明がゆれるとワイングラスなどもキラキラ反射するという心憎い雰囲気作りの店である。姉妹店に恵比寿のオチョ、銀座のペロがある。コンセプトは同じで、お客に楽しんでもらおうという積極性がみられる。

千代田区丸の内2-7-3 東京ビルTOKIA、丸の内南口から徒歩2分 電話5224-6161 ランチ11:30-14:00 ランチ11:30-14:00 デイナーは17:30-22:30 年中無休。(大島 慎子)

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいていた「JAPANNOW」誌は、日英全文対訳で学校教材としてもますます高く評価されています。4月に完成した2007年度版は、日本全国のホテル110館55,000室の客室に常備されています。日本文化の再発見を通じて新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者

やカメラマンたちによって生き生き伝えることが、「JAPANNOW」誌の編集方針です。2007年度版は、日本の伝統文化のスタンダードである茶の湯の大成者とその故郷である中世の国際交易都市に焦点を当てた「堺と利休」、および現代にまで生き続ける日本の自然観を紹介する「日本のナチュラルヒストリー」という2つの特集を中心に構成されています。また筑紫哲也氏への巻頭インタビュー「道草のすすめ」も収録しました。

1部2000円(送料別)で購入できます。お問い合わせは株式会社ジャパン・ナウへ。電話・FAX 03-3536-1751

道の駅・富士川楽座



道の駅・富士川楽座は、日本三大急流の一つ「富士川」の右岸沿いにあり、東名高速道路富士川サービスエリアと一体となって整備された新しいタイプの道の駅です。富士川越しには富士山を望むことができます。

建物の5つのフロアでは旅の疲れを癒す魅力が満載。

1階はコンビニ「ジェイビーマート」。2階は、川や水に関する知識が学べる富士川体験館「どんぶら」とフリースペース。3階は、レストランと物産販売「まるとく市場」があり、農海産物・おみやげがある。4階は、CG映像によるドーム型シアター「わいわい劇場」、ギャラリー、パノラマレストラン、展望ラウンジがある。展望ラウンジ内にはマッサージチェア・フットマッサージがあり(5分100円)、体を癒しながら雄大な富士山と伊豆半島が一望できる(午前8時~午後8時50分)。また、展望ラウンジ内には「Cafe富士山のめぐみ」があり、富士山山麓の銘水を使用したこだわりコーヒー(200円)を販売、展望ラウンジ内の好きな場所でOK。

メニューは他に本場静岡の緑茶(200円)オレンジジュース(250円)等。2階「どんぶら」は、エコロジーをテーマにした参加型の体験館。エコクイズラリー、身近な道具で科学をおもしろおかしく紹介するわくわく実験。かやぶき屋根の工房でのクラフト教室など大人も子供も楽しめる。4階「わいわい劇場」は直径14mの巨大ドームスクリーンに自然と環境をテーマにした、大迫力のCG映像が映し出され、傾斜のついた客席で、平面のスクリーンとは違った感動が体験できる。

「どんぶら」「わいわい劇場」ともに有料で、営業時間は午前9時半~午後5時。道の駅開設時間は午前8時~午後9時(駐車場、トイレ、公衆電話などは24時間利用可能。)電話:0545-81-5555 (堤りり)

【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)
東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階
JAPANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)
へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して!!

観光情報紙2008年3月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400~500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2008年3月25日。締め切りは3月15日。

NPOから提案します

ミシュランと赤福

高崎経済大学観光政策学科教授 寺前秀一

ミシュランの格付本が話題になっている。西洋人の手による西洋人の為につくられたものであり、これを契機に訪日外国人が増加すれば狙いどおりであるが、目下のところ日本語版に日本人が大騒ぎしている。江戸時代から日本人は温泉番付、美人番付等ランク付けが大好きである（石川英輔氏）が、他方で真剣な評価を嫌うという意見もある。教育界は学力の絶対評価を嫌い、落第は回避される。評価されることに子供たちが訓練されていないと批判されている。

観光地のお土産もコンクールが実施されている。商工会議所等民間ベースによるものである。食品部門と非食品部門に区分され、食品部門においては審査実施上の都合からか、「味」は審査の対象外である。土産は見た目が大事であるという本質をついている。「温泉」表示問題に懲りず「赤福」「白い恋人」も話題になっているが、土産物の販売は駅・空港売店、土産物店に一次的責任があるにもかかわらず、他人事のように、納入業者の不始末とした対応であるのには合点がいかない。

赤福関係者は観光カリスマを「辞退」したと報道されているが、評価した主体が取消すべきことであり、カリスマ選定委員会（島田晴雄委員長）が判断すべきである。セクハラ、雪崩事故に続くカリスマの不始末であり、観光カリスマ制度の評価責任主体のあいまい性こそ問題にすべきかもしれない。顕彰制度は現存する人物を対象とする限り困難さを伴うものであるだけに、観光人づくりにおいて留意すべきは、歴史の評価に耐えた人物に学ぶ必要がある。人物評価だけでは

なく、法令に基づかない行政機関の評価制度が乱造気味である。いずれ行政改革の槍玉として挙げられるであろう。

観光とは不思議なもので、お陰横丁の赤福店舗前で記念写真を取る観光客が絶えないという。贗作、スラムも観光資源であり、夕張市の財政再建団体ツアーも組まれている。観光事業の価値とは話題（集客力）であるという本質を表した現象であり、観光とはたくましいものなのである。

あんな話 こんな話

結婚式を挙げたカップル名がズラリ並ぶ

昨年11月6日開催の、第3回「観光立国フォーラムin札幌：21世紀は大北海道圏の時代」に参加の際、一昨年に続いて札幌グランドホテル新館に宿泊した。宿泊料金が妥当なことと、立地の良さ、駐車場の豊富さが宿泊利用する理由である。新館へは、レセプションルームがある本館から奥のエレベーターで行くことになる。2階の通路にボードが10数枚あり、5～6cm幅、高さ1cmほどの金属板が付けられている。よく見ると、開業以来のものか暦年婚礼者のペアの名前であった。ホテルの婚礼数を外部の者が知ることはほぼ不可能である。ところが、ここ札幌グランドホテルでは、ボードに張り出してある。年度ごとの婚礼件数を指折り数えた表もある。1992年のところには、元大関小錦の名もあった。なお、いつの頃から教会形式の式場が作られたが、そのカップルの名前は表示されていない。
(JN会員 杉 行夫)

イタリア通信 その2 ～ミラノ・ガイドブック～

人気を呼ぶガイドブック

「とびっきりのミラノ」

ミラノで今、感度のよい人たちに注目されているシティ・ガイドブックがある。その名は「ミラノ・ストラオリディナリア (Milanostraordinaria)」

ストラオリディナリオは「並外れた」「ずば抜けた」という意味。「ミラノとびっきりガイド」と意識することもできよう。

小さな版だが、中には200件以上の「ミラノとびっきり」のショップやレストラン、アートギャラリーなどの店舗情報が詰まっている。どれも一



味違うユニークな店舗ばかりだ。有名ブランドショップやチェーン店は一つも入っていない。興味深いのは各店舗について店の写真、紹介文やデータ

に加えて、店主の写真やプロフィールも掲載されていること。店主がどのような思いでこの店をつくり運営しているのか。扱っているグッズやサービスだけでなく、店主も“出演”してもらうことで顔のみえる200のストーリーを集めたミラノ案内にもなっている。

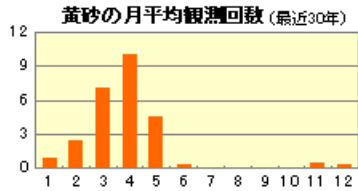
この国の街角にある個性的なショップやカフェ、何気なく通り過ぎてしまいがちだが、小さいながら各店が一味違った何かを発信している。そしてこれらの集積こそが世界のどこにもない個性的なミラノのストリート、そしてミラノの街をつくっているのではないか。この視点からはじまったオリジナルなミラノガイド。今ではローマ、フィレンツェ、トリノ、ヴェネツィア、ジェノバ、ナポリと他都市に広がり全国レベルのプロジェクトにまで発展してきている。 <http://www.italiastraordinaria.it>

12月はじめミラノ・トリエンナーレで開かれた本ガイド2008年版のお披露目には、ガイドに登場する店主たちが多数集まり喝采を浴びた。(大島悦子)

黄砂の季節がやってくる

冬の終わりから春にかけて、空が黄色っぽく霞(かす)み、見通しが悪くなることがあります。はるばる大陸から飛んでくる黄砂(こうさ)です。黄砂は中国やモンゴルの砂漠(ゴビ砂漠、タクラマカン砂漠など)や黄土地帯で強風によって空高く舞い上がった小さな砂粒(直径0.001mm以下)が、上空の西風に乗って飛んできて、ゆっくり降ってくる現象です。

黄砂は、日本では2月頃から観測される回数が増え始め、春にもっとも多くなります。砂漠地帯では雪解けのち、地面が乾燥し、まだ生えている植物が少ない



ことが、この時期に黄砂が大量に発生する原因です。黄砂は西の方からやってくるため、西日本や日本海側で観測される回数が多く一番大きな影響を受けるのは九州です。黄砂が飛んでくると空が黄褐色になるだけでなく、洗濯物が汚れたり、車の上に積もったりします。見通しが悪くなって、交通機関や航空機の離発着に影響が出ることもあります。時には、黄色や赤っぽい雪が降ることもあります。

黄砂の飛来は2000年頃から増加傾向が見られ、2002年には観測回数が過去最高を記録しました。黄砂の濃度が濃い中国や韓国では、呼吸器系への影響など健康被害も報告されていますが、今後も黄砂が増加すると、日本でも注意が必要になるかもしれません。気象庁では黄砂の飛来予測を行っており、気象庁ホームページに「黄砂情報」が掲載されています。 日本気象協会 林 英美

会員名簿 (敬称略)(個人会員名簿は公開していません。別刷ご参照)

名誉顧問 : 松山善三(映画監督)
 理事長 : 松尾道彦(日本海事センター会長、前日本鉄道建設公団総裁)
 顧問 : 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング顧問)
 副理事長 : 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(元小田急トラベル社長)、横山善太(株JALUX特別顧問)、大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JTB専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役)
 支部長 : 片山文彦(新宿)、水野卓哉(北陸)、田久保万里夫(立教)、長尾亜夫(九州)、須田寛(中部)、岩田弘三(神戸)、坂本眞一(北海道)、梅原利之(四国)、丸森仲吾(東北)、大田哲哉(中国)

【団体会員】(2008年01月25日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、(株)アドルックス、荒井建設(株)、アンテス電気(株)、安藤建設(株)、イ・エムティ(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、射水市(富山県)、(株)井六園ワールド、岩田地崎建設(株)、(株)HKエアックス、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚ハルビ、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、佐川アドバンス(株)、(株)サマンサタバサジャパンリミテッド、三協立山アルミ(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(株)、清水建設(株)、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JTB、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、常興産産(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、ハーキングプロ(株)、セントラルリングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)、大成サービス(株)、大成設備(株)、大成エック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高商、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店(株)、丹青社、中国電力(株)、中部電力(株)、ティートレーディング(株)東京支店、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トヨカネソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業所、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)、日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタント、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本プラント建設、(財)日本ホテル教育センター、(株)キューテック、ネスレ日本(株)、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、広島電鉄(株)、福岡空港ビルディング(株)、(株)パロックスジャパンリミテッド、(株)フィールドサービス、(株)フェイリックホールディングス、富士機材(株)、藤長電気(株)、富士通(株)、プラネットワークス(株)、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメロリアン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマックス、マイナホールディングス(株)、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

JAPAN NOW

観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-13

小田急代々木ビル3F

電話 03(5304)9500

FAX 03(5304)5632

E-mail info@japannow.org

Home page http://www.japannow.org

発行人：白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長：加納 隆(JN協会理事)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

今年は「子年」。明治以降でも、子年にはさまざまな出来事があった。廃刀令(1876)、磐梯山噴火(1888)、2・26事件(1936)、帝銀事件(1948)、日米新安保条約、国民所得倍増計画(1960)、あさま山荘事件(1972)、ペルー日本大使公邸人質事件(1996)……。日本人に夢を与えてくれた所得倍増計画を除けば、楽しい話は少ない。

さて、観光・交通関係でみると、タイタニック号沈没(1912)という悲劇を除けば、結構前向きな話がある。新橋 横浜間の鉄道開通が1872年。運輸省(現国土交通省)の前身である鉄道省誕生が1920年。あの佐藤栄作首相は鉄道省に入り、運輸事務次官だった事もある。

そして今年2008年、観光庁が発足する。2010年目標の外国人観光客1000万人突破も、JTBの予測が今年900万人なので、観光庁のスタートで勢いがついて「ラクラク実現」といきそう、かな。(加納)